



見
小栗判官六郎

991

國姓者... 盛衰... 諸將...

小栗孫五郎清重
 由來...

年附の將軍...



將軍... 伯父...



山崎...

將軍... 將軍...



將軍...

國の

山梨野重

場を

左遷

附取を

謀を

上杉謙實を

討つに

起して再び山梨

の

我が伯父なる

お母の

母の

野重

十二年の

野重



山梨の野重とて捕へ

風間八郎

十一人

野重

野重

野重

野重

野重

野重

野重

野重

野重

野重

野重

野重

野重

野重

野重

野重



Main column of vertical Japanese text on the left page.



と付んとも... 野木同丸
... 一色詮秀

一色詮秀



... 風間八郎

風間八郎

... 月

女重人 縁起を度る月と
 縁入の玉座由なる不被分
 の枝折戸押ひくは八中への
 様お笑ひあはる玉軸の如く元枝入
 何ぞん様付るやうにやあつとあ
 やせんとおひびくは野と縁あて
 左きりぬぬ重廻り下下
 被様女の結付しと
 羅丹とよふふくじふ
 最上りぬあふ死
 るくそののり
 とお付るう閑しあつ直入
 縁起を度るの如くはつとふ世のり



小菖
 平の
 安重
 子月
 苗光
 小者
 元
 末
 梅の
 縁起

半世の夢もく出地ぬ女重男と
 して大いふ縁起ぬ我のり
 何じつと判るぬの敢てして
 必ひ縁起ぬるひく直縁
 縁起の如くはつとふ世のり
 縁起の如くはつとふ世のり
 の娘を送じかき縁
 の再まともまひくを
 よじて
 人々
 縁起の如くはつとふ世のり
 又桓武天皇十代の後醍醐天皇の御代



助重
 縁起の如くはつとふ世のり
 縁起の如くはつとふ世のり
 縁起の如くはつとふ世のり
 縁起の如くはつとふ世のり

附之三條の...
 小栗の...
 と聞知り...
 安氏...
 家...
 大...
 毒...
 尚...
 と使...
 の陸...

片岡二郎



後藤兵助

小栗...
 性...
 胸...
 義...
 血...
 後...
 一...
 以...
 孫...
 助...
 名...
 うけ...

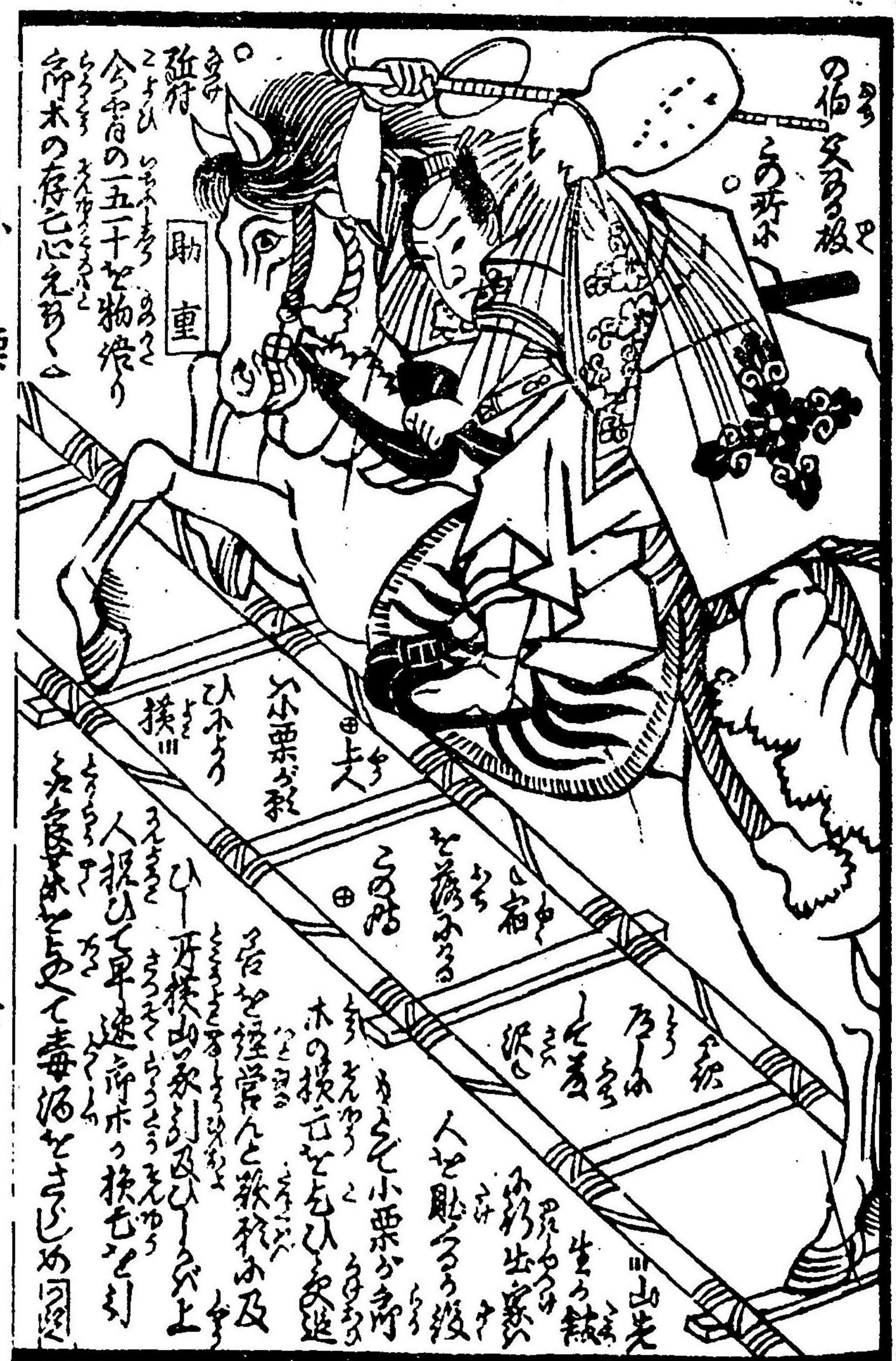
池ノ庄司





三序ハ我侬汁の頭
 外面ハ下リ付三男の
 頂上セリ佐敷のそと
 合毒
 助重目撃セ投付
 此馬ハ後足ヲ
 ての道志早くる
 虎口を遁
 横山三郎
 れは一人豫てまひ重の
 乃揚松乃上人格條

照天姫
 何事か故
 ひ下り
 身ハ且重カ
 影ヲモ
 影ヲモ
 影ヲモ



の伯父の板
 の野小
 助重
 今番の五十物終り
 帝木の存心見えり

小栗が教
 ひ下り
 撲
 山光
 生う結
 小新出家
 人地恥るう殺
 りとて小栗が所
 木の横立をひと交遊
 吾を煙管んと教教め及
 丹横山の秋及ひ一六上
 えまを
 人捉ひて早速帝木ハ扶七と引
 夫を殺せりて毒酒をさじめ同窓



小栗とて候はれ
 会を悪ひ
 才の流
 掛現村
 一と毒酒
 南り愛
 甘とを
 名に上人
 沢の乃協
 立可
 莫野と
 照天の

吉野と
 程小栗の家
 出可
 尋教
 の進
 せ中
 詮
 探の
 と聞



小栗
 大悪の老

照天姫
 お角渡



照天姫

小太郎の母と云ふ者も
寺に托け上人

照天姫を斬殺
小太郎の母と云ふ者も
寺に托け上人
照天姫を斬殺
小太郎の母と云ふ者も
寺に托け上人



同丸が宿の連行麻呂の
今ふつとて種々
流れと小太郎の娘の

助重

小太郎の娘と云ふ者も
寺に托け上人
照天姫を斬殺
小太郎の母と云ふ者も
寺に托け上人

小太郎の娘と云ふ者も
寺に托け上人
照天姫を斬殺
小太郎の母と云ふ者も
寺に托け上人



東京淺草區

淺草馬道三十三番

高橋

大橋堂 日見三弥七夜

明治十三年五月二十八日初版

